授業改善に役立つ
アイディア事例

児童生徒に確かな学力を定着させるためには，学校全体で組織的な取組を継続することが大切です。このリーフレットは，学力向上研究指定校の取組の中から参考事例を紹介し，授業改善のヒントとなるよう作成したものです。

取組事例

小学校・国語	授業づくりシートの活用（大崎市立古川第一小学校）
小学校・算数	考えをつなぐ学び合いの工夫（塩竈市立第二小学校）
小学校・算数	思考の過程を表現させる工夫（石巻市立須江小学校）
中学校・各教科	学び合いを取り入れた学習過程の工夫（栗原市立若柳中学校）
中学校・各教科	仲間づくり・学級づくりを基盤とした分かる授業づくり（気仙沼市立条南中学校）

宮城県教育委員会

平成27年3月

小学校
国　語

授業づくりシートの活用

大崎市立古川第一小学校

<取組のポイント>

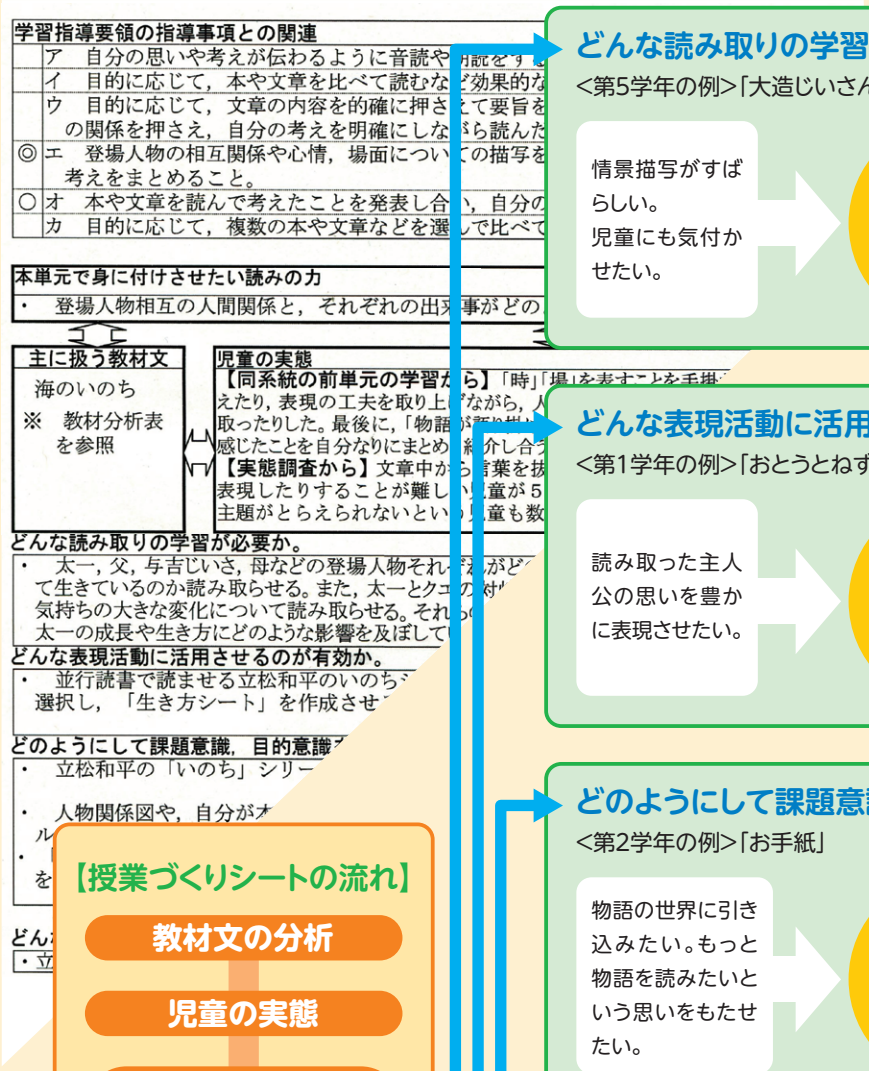
身に付けさせたい力を明確にし，そのためにどのような学習が必要かを考えていく流れを1枚のシート（授業づくりシート）にまとめ，授業づくりに活用していく。

<取組の実際>

【授業づくりシートとは】

身に付けさせたい読みの力，教材文，児童の実態，単元を貫く言語活動とのかかわりを明確にし，授業づくりの大枠を示したもの。

【授業づくりシートの一部】



【授業づくりシートの流れ】

教材文の分析

児童の実態

学習指導要領の指導事項との関連

身に付けさせたい読みの力の設定

単元を貫く言語活動の設定

どんな読み取りの学習が必要か。

<第5学年の例>「大造じいさんとがん」

情景描写がすばらしい。児童にも気付かせたい。

情景描写を手掛かりに中心人物の心情を読み取らせていく。

描写を意識させる掲示物

どんな表現活動に活用させるのが有効か。

<第1学年の例>「おとうとねずみチロ」

読み取った主人公の思いを豊かに表現させたい。

自分で選んだ本の主人公になりきって音読させる。

主人公になりきった様子

どのようにして課題意識・目的意識をもたせるのが有効か。

<第2学年の例>「お手紙」

物語の世界に引き込みたい。もっと物語を読みたいという思いをもたせたい。

ブックトークを行い，物語の展開の楽しさに触れさせる。

ブックトーク時の掲示物

どんな並行読書に取り組ませることができるか。

<第6学年の例>「海のいのち」

立松和平さんの本にたくさん触れさせたい。

立松和平の「いのちシリーズ」の本を手に取れる形で提示する。

並行読書の提示

小学校 算数

考えをつなぐ学び合いの工夫

塩竈市立第二小学校

<取組のポイント>

「考えをつなぐ学び合い」を，自力解決で出された考えを基に，物事の関係やきまりを見いだしたり，得られた結果の意味を見つめ直したりして，ねらいに迫ることと捉え，学習展開の工夫を試みる。

<取組の実際>

①「学び合う段階」において，児童の考えをつなぎながら物事の関係やきまりを見いだしたり，得られた結果の意味を捉えたりする発問や算数的活動を取り入れた展開を工夫した。

②「振り返る段階」において，多様な考えや捉えを見取る学習感想と，評価，定着，活用を意図した問題を設定した。

段　階	
つかむ	問題把握
	学習課題の設定
見通す	見通す
解決する 学び合う	自力解決
	集団解決
	まとめ
振り返る	適用問題
	学習感想

①学び合う段階

既習の長さの学習を想起させ，調査的な算数的活動へと導くことを意図して発問を工夫し，「長さ」を同じ物でいくつ分と表した活動を活用できることに気付かせた。そして，重さ「も」同じものでいくつ分と表すことができることを既習と関連付けて発見させた。

実践例 3学年「重さのくらべ方」

任意単位の必要性に気付かせる発問

てんびんを使った直接比較では，重さの違いを表現できないことに気付かせるため**「どちらがどのくらい重いでしょう。」**と発問した。

→児童から「どちらがどれくらい重いかは分からない。」という発言がでて，「重さを何個分ではかる方法を考えよう。」という学習課題につながった。

既習を生かし任意単位を用いて比較・検討する学び合い活動を取り入れた展開

「長さ」「体積」の学習における測定を想起させながら，「重さ」でも任意単位を用いて数値化する活動を行った。

児童からでたまとめ

「重さは，同じ物でいくつ分と表すことができる。」

↓

「長さ」「体積」の学習を想起させ比較・検討させた。

→「重さ**も**同じ物をいくつ分と表すことができる。」

「長さ」「体積」と関連させて，数理的な処理のよさに気付くことができた。

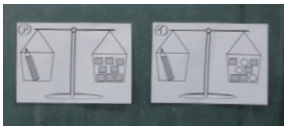
②振り返る段階

適用問題は，学び合いで得たことを実際に使い，学びを深めものである。学習感想は，友達と考えをつないで発見したことを振り返り，自分の学習を価値付けさせるものである。

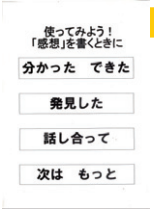
適用問題作成の意図	評価，定着，活用
学習感想の観点	物事の関係やきまりを発見した 学び合いのよさ　課題解決意欲

学習内容の評価を意図とした適用問題例

「正しい測り方はどちらでしょう」



児童に提示した観点



児童の感想

長さやかさと同じはかり方（任意単位）で重さまではかれるなんてびっくりしました。

小学校
算　数

思考の過程を表現させる工夫

石巻市立須江小学校

<取組のポイント>

自分がどのように考えていったかを，図，式，言葉などを用いて表現することにより，考えを整理したり深めたりできるようにする。また，集団で思考し，表現し合うことにより，多様な考えに気付き，理解を一層深められるようにする。

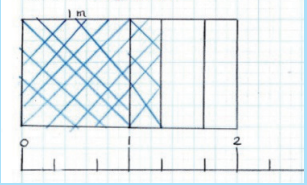
<取組の実際>

1 意図的，計画的に図などのかき方，使い方を指導する。（事前の指導）

○単元の初期の段階で，図のかき方などを一斉に指導する。

「分数の表し方にはこういうのもあるよ。
今日はこの図のかき方を練習しよう。」

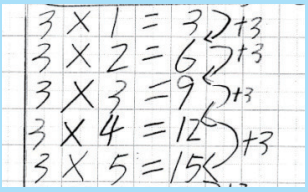
（4年 分数タイル図）



○低学年から段階的に，図のかき方や記号を用いたかき方などの指導を積み重ねる。

「今日の九九の答えの見つけ方を，矢印を使って一緒にノートに書こう。」

（2年 九九の構成）



2 多様な方法で考え，表現しようとするように働き掛ける。（自力解決）

○見通しをもたせる段階で，様々な解決方法があることを全体で確認する。

「どのような方法を使ったら答えを見つけられそうですか。」

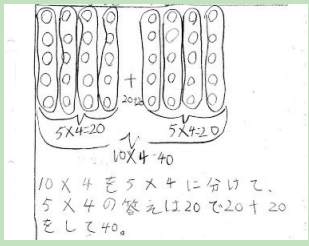
○算数コーナーの既習の考え方や既習の図を参考にさせる。

（4年 算数コーナー）

○できるだけ，図，式，言葉をセットで書かせる。
○分かりやすい，工夫した表現になるよう意識させる。

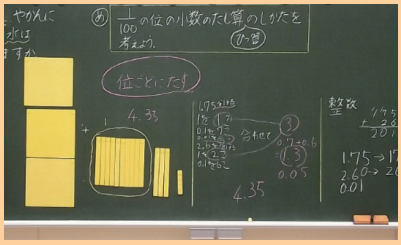
「友達が見てもどう考えたかが分かるように，工夫して書こう。」

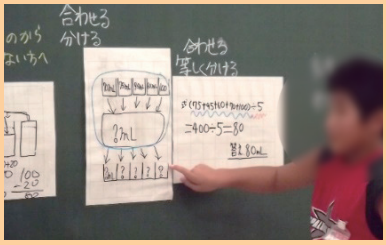
（3年 九九を見なおそう）



3 多様な考えを関連付ける。（集団解決）

○図，式，言葉などで表された考えを，話合いの中で関連付けていく。





中学校
各教科

学び合いを取り入れた学習過程の工夫

栗原市立若柳中学校

<取組のポイント>

授業の中に生徒同士の学び合いの場面を設定することで，生徒の学ぶ意欲を高め，各教科の基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。

<取組の実際>

◎学び合いを取り入れた学習過程の工夫

とらえる

課題を自分のものとしてとらえる

【課題設定の工夫】
【導入や教具の工夫】
・おもしろそうだ。
・必然性がある。
・分かりやすい。

考える

課題に対して，自分の考えをもつ

【思考時間の確保】
【生徒の考えを引き出す助言】
・これまでの学習内容の想起。
・課題解決に対して，見通しをもつ。
・文章，グラフ，図表などを読む。
・観察する，感じ取る，聞くなど。

深める・広げる

自分の考えを深める，広げる

【学習形態の工夫】(ペア・少人数)
【話合いスキルの提示，役割分担等】
・自分の考えを伝える。
・友だちの考えを聞く。
・共通点，相違点に気付く。
・考えを検討し，より深い(広がりのある)自分の考えをもつ。
・共有する。

まとめる

本時の学習をまとめ，振り返る

【振り返りシートの工夫】
・この時間でこのようなことが分かった。
・こんな力が身に付いた。

《深め・広げる段階の学び合いの実際》

2年数学 題材：平行線と角

○ 学習課題「角の性質を用いて，角の大きさを求めよう」

<具体の学び合い>

①3～4人のグループを作らせ，司会者，発表者等の役割を分担
②一人一人が自分の考えを発表
③グループ内で様々な解き方を確認

T　数学的用語を使って説明しよう。

生徒A　錯角や同位角などの用語を使って説明するのか。

生徒B　ミニホワイトボードに記号を使って式を書けば分かりやすいね。

④全体の場でグループの考えを発表

T　他のグループから出た解き方と自分たちの解き方を比べながら発表を聞こう。

生徒C　平行線や補助線を引くなど，いろんな解き方があるんだ。

生徒D　平行線や補助線の引き方も，1箇所だけではないんだ。

<学び合いによる生徒の理解の深まり>

・「その解き方でいいんだよ。」「早く他の班の考えが知りたい。」「なるほど，そうか!」など生徒の主体的な学びにつながった。
・課題解決の仕方には，様々な考え方があることに気付き，よりよい解き方を考えようとする生徒が見られた。

中学校
各教科

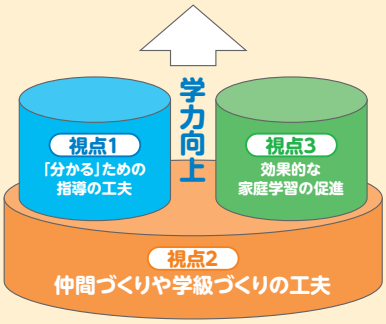
仲間づくり・学級づくりを基盤とした分かる授業づくり

気仙沼市立条南中学校

<取組のポイント>

― 学力向上は仲間づくり・学級づくりから―

仲間づくりや学級づくりは，生徒が学習を進める上での基盤となり，生徒が安心して自分の考えを表現したり，思いを伝え合い高め合ったりするためには，互いを励まし合い認め合う仲間や学級が，必要不可欠である。望ましい仲間づくりや学級づくりのための様々な取組をとおして学習の基盤づくりに取り組んでいる。



<取組の実際>

〔「分かる」ための指導の工夫〕

○ 思考を深めるための話合い活動の工夫

自分の意見や考えをもつこと，相手に分かりやすく伝えること，また，他者の意見を聞いたり比較することで自分の考えを深めたり，新たな気付きが生まれるなど，話し合う活動は，思考力，表現力を育む上でも効果的であった。また，よい人間関係により学習の成果が上がることが分かった。

「話し方」や「聴き方」のポイントをつかみ，良い話合いの習慣を身に付けさせることは，「望ましい人間関係の構築」に役立ち，学習の効果も高めることができた。

〈話合いのルールの指導〉

グループ学習，ペア学習を積極的に取り入れ，グループは4人を基本とした。

〈ペア学習の様子〉

〔仲間づくりや学級づくりの工夫〕

○ アンケートや学力検査を活用した取組

Q−U調査と学力調査の結果をクロス集計した表から生徒を類型化し，さらに生活アンケート等の結果や教師の日常の観察記録による普段の生活ぶりを基に分析することにより，生徒ごとの対応を共通理解し仲間づくり等に生かしている。また，生活アンケートのストレスポイントにより，スクールカウンセラーのカウンセリングを実施し，サポートを行っている。

校内研修会では，アンケートや学力検査結果のプロット図やクロス集計表による分析と，追跡調査を行っている。

○ 望ましい人間関係構築のための日常的な取組

自己肯定感を高め，望ましい人間関係の構築のために，グループ・エンカウンターのエクササイズを学級担任・養護教諭・県外SCによるTTで行っている。また，朝の会・帰りの会等でもグループ活動を積極的に取り入れ，互いに認め合う活動を行っている。

〈「心の花束」の授業〉

学級の仲間それぞれのよいところをメッセージにして伝え合った。

〈ショートスピーチ
「○○君ありがとう」〉

〈今日のヒーロー
今月のヒーロー〉

〈朝の会・帰りの会でのグループ活動〉